



李承熙 イ・スンヒ  
Lee Seunghee

<プロフィール>

1958年韓国生まれ。教育清州大学工芸科卒業。李承熙(イ・スンヒ)は自身が眺める対象を通じて世界を表現する。その表現媒体が絵画にせよ、彫刻にせよ、工芸にせよそして、その表現方式が事実にせよ抽象的にせよもしくは、オブジェ自体を利用するにせよ作家は物事という対象を通じて世界を眺める。これが物事と作家が出会う固有の方式だ。イ・スンヒは陶磁器特に、朝鮮時代の白磁を描く。そしてそれを事実に描写する。彼が画面で指示する対象が具体的という意味である。朝鮮白磁がまさにそれである。彼はなぜ朝鮮白磁に特別な関心を傾けるのか。実際、朝鮮時代の白磁は韓国人の情緒を代弁する最も代表的な美術品として収集家と愛好家の間でだけでなく美術家の間でもとても人気が高い韓国の文化遺産である。また形態と色感、簡潔でありながらも淡白な表現そして、物質的な限界をありのまま表す自然な美感で朝鮮白磁は韓国現代美術と最も情緒的に連結されていると評価されている。李承熙(イ・スンヒ)はこのような朝鮮白磁を通じて自身が眺める世界を表現する。しかし、彼にとって朝鮮白磁(陶磁器)は媒体ではなく表現の対象すなわち作品のモチーフである。陶磁器と言う物事との長い経験の時間を経て変化した媒体経験を通じて物事に関する彼の記憶は今では全く違う方向(道、Tao)を指している。

<ギャラリーコメント>

李承熙(イ・スンヒ)は30年以上「土」という素材について研究を積み重ね、独自の「平面陶磁造形」世界を構築しました。近年は世界の美術関係者より韓国の伝統的な白磁が持っている造形的特徴を活かしながらオリジナルの空間性を実現していると高く評価されています。李が自身の作品と向き合う際の探検家のような精神性は、2013年から発表している「TAO(道)」といったテーマからも窺うことができます。



裴相順 ベ・サンスン  
Bae Sangsun

<プロフィール>

2002年武蔵野美術大学造形研究科美術専攻修了。2003年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(版画専攻)交換留学生。2008年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程満期退学。その後は、韓国と日本を往来しながら京都を拠点に国際的に活動する。これまでの作風について、人体モチーフから始まった木炭によるモノクロームの絵画では、静謐かつ力強い作品を制作する。もともと人体デッサンに基づく抽象化した輪郭線から出発している作品は、有機的な線の韻律があり、それが生命のつながり、結びのかたちにもつながっていた。作品の重要なコンセプトとして、人と人との間で相互に作用するエネルギーの交換、流れの向きや強さが常に移り変わっていく不可視の不定形なオーラを描き出す。2005年と2008年にVOCA展「現代美術の展望-新たな平面の作家たち」に選出され、紐や結びをモチーフにしたインスタレーションや陶芸作品を発表する。近年は、日韓の近現代史のリサーチに基づく写真作品や記録資料を収集、リサーチを元にした画像作品を手掛け、公益財団法人韓昌祐・哲文化財団の助成対象「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2019」の同時開催イベント「KG+SELECT2019」に選出されるなど、活動の場を広げている。

<ギャラリーコメント>

裴相順(ベ・サンスン)の作品は一見すると単純なモノクロに見えますが、詳細に分析すると白い紙の上に木炭による無数の線と面が蓄積され、不思議な視覚的、物理的な立体感を作り出していることがわかります。同じように木から生まれた紙と木炭、この二つの素材だけを使って何時間もあるいは何日も修行のように無限の線を重ねていく制作プロセスからは、世界的な美術家、李禹煥(Lee U-Fan, 1936年 - )が語った「非計画の持続による計画性」を実現したような造形性も感じることができます。



河明求 ハ・ミョング  
Ha Myoung-goo

<プロフィール>

河明求(ハ・ミョング)は日本と韓国に拠点を置いて国際的な活動の幅を広げている韓国出身のアーティストであり、展示や社会などの様々な企画の経験を持っている。韓国の慶熙大学校芸術デザイン学部を卒業後、渡日して京都市立芸術大学校美術研究科で修士課程を卒業した。主な作品は神話、伝説、昔話などから得たインスピレーションを基に今の時代を風刺的に表現した「ドッケビシリーズ」があり、日本埼玉県朝霞市の公式マスコット制作、日本スポーツ用品販売会社「フタバスポーツ」とのコラボなど社会的なプロジェクトの実績も認められている。大学院の卒業後には日本の丸沼芸術の森に所属され、アーティスト活動と共に国際交流展、国際アーティストインレジデンス、国際ワークショップ、新人作家育成、海外アートフェアなど様々な企画やコーディネーターとしての活動も積極的にを行っている。最近はその専門性を認められ、韓国文化体育観光部傘下韓国工芸デザイン文化振興院、駐日韓国大使館韓国文化院など政府機関主催の国際活動にも協力している。

<ギャラリーコメント>

河明求(ハ・ミョング)は当初、実用性のある物を中心に制作をしていましたが、日本やイギリスへの留学をきっかけに社会と自分の関係について関心を寄せるようになります。例えば、本展に出品したポケットスクエアのシリーズは河が持っていた工芸的な完璧さに対する抵抗心を焼き物のプロセスで素直に表現した作品です。普段通りに制作した器を自由に崩し、ボロ雑巾のような表情に変わった陶製の存在を美術品のように壁にかけて展示することで、完璧な美しさについて作家自身と観る者に問いかけています。それは20年以上、陶による表現に真正面に向き合い、自らの疑問に答えるために制作をしてきた河ならではの産物と言えます。

EXHIBITION

Explore 「探検する芸術家たち」

2022年 5月4日 [水] - 5月28日 [土]

会場: 桃青京都ギャラリー

休廊日: 8日・9日・15日・16日・22日・23日

桃青 Tosei Kyoto Gallery  
桃青京都ギャラリー

〒604-0924 京都市中京区一之船入町河原町通二条下る375 SSSビル1階  
電話: 075-585-5696 営業時間: 11:00-18:00 定休日: 日曜日・月曜日

<https://www.gallerytosei.com/kyoto/>

